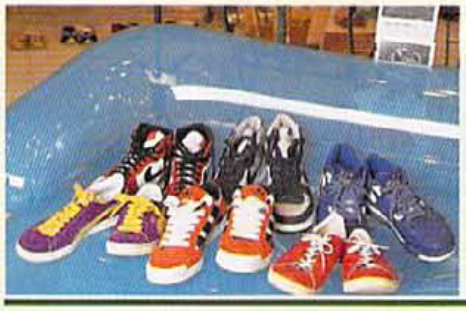
感度の高さがエクセレント。ハイパーに続くマイブーム。



ステューシーにはまっていた頃凝って集めたというスニーカーのほんの一部。ジョーダンのファーストやアメリカのみ発売だったスタンスミスなどレアもの揃い。

PROFILE

ケイタ・マルヤマ・キョウト店の塩崎ジロウ氏。ダッファー・オブ・セントジョージのTシャツにリーバイスのジーンズ。ベルトと靴はグッチ。

京都ファッションのコアにある。感度の高いマイブーム。

彼がファッションにはまったのは、「ワールド・エンドの頃のヴィヴィアン」とか。意外にもそれまでファッションにはあまり興味がなかったという彼が服にはまってしまったのは、大学生の頃、モンタ氏との出会いがきっかけという。それ以来「居心地良くて居ついてしまった(笑)」モンタ氏の店のスタッフになる。その彼にヴィヴィアン以降着てきたブランドを挙げてもらうと実に様々。「飽き性なんですよ(笑)マサキを着てるとカジュアルなダッファーが着たくなったり。」徹底してはまるのに、感度に合うものが出てきたらあっけない程次に移行する、だがそれはむやみに新しさを追う早さでなく、彼なりにマイペースというのがエクセレント。「要するにミーハーなんですよ(笑)。」とは言うが、「興味を持つと自分の目や手で確かめずにいられない」というジロウ氏 マイブームはやはり注目である。

ファッションにはまってからは、大学を卒業して、東京の文化服装学園に入り直したという。「一つ下にはアンダーカバーのジョニオクンもいて、やっぱり彼は目立ってましたね。髪もドピンクとかで(笑)。卒論にヨージさんにインタビューしたり面白かったですよ」その後京都に戻ったのは、モンタさんが開いたピカハーを手伝うためだったとか。「見たことのないものを見てみたい」という思いが人一倍という彼ながら、モンタさんには「本当に視野が広がってきたと思うです。」と敬服する。刺激されて「やっと(笑)僕も視野が広がってきたと思うです。」左はガリアーノもはいていたヴィヴィアンのパンツ。

ワールド・エンドの頃のヴィヴィアン・ウエストウッド80年「パイレーツ」のコーディネイト。ロンドンの服飾博物館にも所蔵されている、東京のオークションではとんでもない値のつく代物。

ヴィヴィアンと一緒にパンクをブレイクさせたマルコム・マクラーレンに関するこの本は「本屋じゃなくて東京のショップで買ったんじゃなかったかな。」

DJでもあったジロウ氏の愛聴盤。すっと注目しているのはビョークの今作をプロデュースしているネリー・フーパー。フーパーのバンド、ワイルド・バンチのジャケットで着ているコートもワールド・エンドのもの。

これもワールド・エンド時代のもの。キース・ヘリングのイラストが最初にプリントされその後のブレイクに結びついた貴重なもの。

服やレコード以外にも最近興味が出てきたという雑貨。中でも「色があるものが気になって」50年代のプラスチック製品に凝り始めているとか。「独特の色と質感が好きですね。」

スイスの鉄道に置いてある時計「MONDAINE」のウオッチを愛用。黒盤で見やすくしっかりとしたクロノグラフ。

実は今一番はまっているのがマッキントッシュ。「最近子供の方がすごいですよね。」

取材・文／端井由紀子★写真／武藤育子